

Implementation and validation project for a university education program using Udemy Business

SASAKI Mio, ESAKA Yukiko, TAMURA Yuka, NAKAOKA Juri,
FUJIEDA Ayako, HORII Kayoko, YOSHIMOTO Kanami

This paper reports on an educational program implemented by Casa: the student staff of the Commons in the Faculty of Humanities and Global Culture through classes and extracurricular activities, utilizing Udemy Business: an online learning platform provided by Benesse Holdings, Inc. The challenges and prospects for the use of online learning tools suggested through this project would be presented.

The survey results after the program conducted by students who registered with Udemy Business indicate that many students took courses introduced by faculty members, and that few students were able to connect these courses to independent learning. The results suggest that when online learning tools are used in university education, faculty members need to motivate and support students to continue learning.

Udemy Businessを活用した大学教育プログラムの 実践及び検証プロジェクト

佐々木 美 緒 SASAKI Mio
 田村 有 香 TAMURA Yuka
 藤枝 絢 子 FUJIEDA Ayako
 吉 元 加奈美 YOSHIMOTO Kanami

恵 阪 友紀子 ESAKA Yukiko
 中 岡 樹 里 NAKAOKA Juri
 堀 井 佳代子 HORII Kayoko

はじめに

Udemy Business とは民間企業が提供する動画コンテンツを用いたオンライン学習プラットフォームである。ビジネススキル、経営、データサイエンス等主に社会人向けに講座を提供しているが、大学生が活用することもできるプレゼンテーションスキル、語学学習、動画編集等の講座も充実している。本稿は、2021年度「Udemy Business を活用した大学教育プログラムの実践および検証に関する教育支援制度」に採択された Casa¹で実施した教育事例の報告である²。

1. 教育実践計画の概要

2021年4月から9月まで Udemy Business (以下 Udemy) を用いた教育を実践するにあたり対象学生は、Casa の学生スタッフと、本活動に興味のある学部学生とした。本活動は Udemy を活用して提供する教育プログラムを2チームに分け、参加学生に対し、各プログラムに適した講座を Udemy から選択して受講させることとした。1つ目は、初年次学生の大学での学びを支援する学生の育成プログラム(以下学習サポーターチーム)、2つ目は学部の広報を行う学生の育成プログラム(以下広報チーム)である。学生は Udemy の講座を受講し、チームでのタスクを実践・アウトプットを行う。各チームの指導的役割を担う教員が適宜サポートする体制を整えた。さらに、2チームの募集後アカウントに余裕があったため、学部学生を対象として自学習のために Udemy を利用したい学生を募った(以下無所属チーム)。

2. 学習サポーターチーム

2-1 教育実践の目的

Udemy を用いた本活動の目的は、学生生活に必要なレポート作成やパソコン操作スキルを習得し、下級生の学びを支援することのできる学習サポーターの育成である。人文学部・国際文化学部の学びにおいて、レポート作成は重要な課題である。特に1年生には、Word 等 MS Office の基本操作指導を含む、学習サポーターの助力が不可欠である。そこで、学術的な作法を学ぶ1年生向けの授業である「基礎演習」と連動し、参加学生が授業の1コマを用いて Word 講習会を実施することを最終目標とした。本活動では参加学生と教員スタッフでチームを形成し、Word ソフトの操作方法を Udemy で学び、そこで身に付けた知識・技術をもとに、講習会の演習内容をチームで考案した。また、PowerPoint の効果的な使い方も Udemy で学び、充実したレクチャーができるように準備することとした。

2-2 活動内容

Udemy で学んだことをもとに、学生が講習を考案、「基礎演習1」のうち1コマで学習サポーターによる講座と演習を実施した。まず、1年生向けの Word 講習会を実施するために、教員が指定した Udemy の講座を期限内に受講することを課し、受講後全体で共有した。その後、講習会を実施するチームで演習内容の検討、リハーサルを経て各チームが作成した演習等を基礎演習のクラスで実施した。講習会実施後、チームと全体でフィードバック会を実施し、講習会の反省点を共有した。

2-3 活動の成果・評価

Word 講習会の準備、実施、フィードバック会を通して、参加学生は学生生活に必要なレポート作成やパソコン操作スキルを習得し、下級生の学びを支援するという学習サポーターを育成の目的が達成できたと考える。以下では、プログラムを担当した教員の評価とともに、参加者や講習会を受講した1年生の反応をもとに、達成度を評価する。

準備段階では、教員が指定したUdemyの講座を参加学生の全員が受講した。その結果、習得した知識をもとに、レポート作成に必要な機能を中心とした講習を、いずれのグループも準備することができた。特にパソコンに不慣れな1年生からは、基本的な操作方法から学ぶことができた、と好評であった。提出されたファイルからは、大半の1年生が講習会の内容を理解できたことが窺え、おおむね順調だったと評価できる。

参加者のフィードバック会では、下級生のサポートにあたって工夫すべき点について、聞き手の様子に注意を払うこと、シンプルな説明が効果的等、学生が気付きを得たことも実感できた。一方、進行については、時間配分や使用する機材の動作確認、本番を想定した事前準備の必要性を反省点としてあげている。

以上から、今回のプログラムを通して、下級生の目線に立ち、より有効なサポートをするための姿勢を参加学生が身に付けられたことが窺える。また、講習会を通して実感した反省点は、今後のプレゼンや研究発表など、参加学生の学習にも活かせるものであろう³⁾。

2-4 学習サポーターチームのUdemy活用結果

Word 講習会の準備のために教員がラーニングパス⁴⁾で紹介した講座のうち、必修と指定した講座は、本プログラムの参加学生のほぼ全員が受講した。しかし、それ以外のUdemyの活用状況は、あまり活発とは言えないものであった。

Udemyの活用頻度を見ると、約半数の参加学生が、講習会終了後はUdemyにアクセスしなくなった。講習会という明確な目標の準備過程としてUdemyを利用したために、その達成後はUdemyへの関心も薄れてしまった可能性がある。残る半数の学生は、教員がラーニングパスで講座を紹介すると、その講座を受講した。そのうち数名の学生は、ラーニングパスをきっかけとして、自ら検索して、いくつかの講座を受講していたが、いずれも少数の

受講状況であり、継続的にUdemyを利用した学生はいなかった。

以上から、選択肢が多いと自分に合う講座を見つけられず、Udemyの利用を継続できない学生が多いことがわかる。

3. 広報チーム

3-1 教育実践の目的

2020年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大によって、オンライン授業が導入され、課外活動が制限されるなど学生らの大学生活は変化を余儀なくされてきた。特に新1年生にとっては、従来のように大学や学部について知り馴染む機会などが大きく限られる。このような状況下において、本活動では、学生と教員で広報チームを形成し、自身の所属する学部について、学びの可能性を発掘し、共有することをテーマとして設定した。

本実践では、上記テーマのもと、学生自らが課題を発見し、解決に資する活動を企画し実践することを目的とした。具体的なアウトプットは、ニュースレターの作成やSNSによる発信である。学生は関連するUdemyコースの受講、実践によって、①課題発掘から実践するまでの実践力：デザイン思考、企画力、プロジェクト管理等、②広報に関する基礎知識：メディアリテラシーやSNS活用等、③個々の関心に応じた表現スキル：写真・映像、ライティング、編集等を習得する。

3-2 活動内容

本活動の内容は図1の通り3段階を設定した。

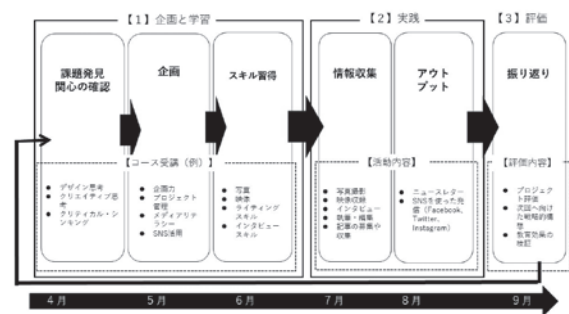


図1：実施スケジュール

本活動には学生8名が参加し、教員3名とともにCasa 広報チームとして、本活動を担当することとなった。第1段階として関心のあるUdemyの講座の受講を促すとともに、広報活動の企画をすすめた。

広報活動の企画では、コロナ禍により大学での交流機会に限られるなか、新任教員について知りたい、新入生にサークルを紹介したい等の提案が集まり、ニュースレター/教員インタビューの配信開始、サークル紹介冊子の作成、Casa 紹介動画の作成、Casa 関連のイベントの広報を担当することを決定した。広報活動を実施するにあたり、個々の関心やスキルに応じて目的別のグループを形成、それぞれの学生リーダーが活動を主導するよう促した。

(1) ニュースレター/教員インタビュー

前期中のニュースレター第1号の配信を目指し、アポ取り、取材/写真撮影、執筆/編集をおこなった。7月中旬にニュースレター第1号を完成させ、配信、学内各所に掲示した(図2)。



図2：ニュースレター第1号の完成版

(2) サークル紹介

6月中旬に新入生のために、大学のクラブ・サークルの一覧を作成・配布した。

(3) ロゴ制作/SNS/各種依頼

Casaの新たなロゴを制作したほか、Twitter、Instagramを利用しての活動告知や、情報発信、チラシ制作を行った(図3)。ソーシャルネットワークに関しては、発信媒体と各SNSの役割を検討し、目的に合わせた用途や担当者、コンテンツ内容などを決定したのち配信を行った。チラシ制作に関しては、Casaの企画・学生関連イベント、告知事項などに関して、教員側の依頼を受けて広報チームが作成することもあり、短期間の依頼に対し、それぞれの学生が自分の能力を生かし積極的に掲示物やコンテンツの制作を行った。



図3：広報チームによるInstagramアカウント(左)とイベントチラシ(右)

3-3 活動の成果・評価

定期的にミーティングを行い、それぞれのタスクや企画を立てることで計画的に活動を実践することができた。イベントの記録、ニュースレター/教員インタビュー、サークル紹介、SNSと、担当グループごとに連携をとり、企画からインタビューや情報収集、成果物作成や発信に至るまでの一連のプロセスを通して企画を実現する力が身に着いた。各学生のスキルに関しては、それぞれが必要に応じて様々なソースやコンテンツを利用しつつスキルアップに励んだ。

その際に、メンバー同士で改善点を指摘し、よりよいものにする、というチームとしてのよい循環が出来ていた。また学生自ら主体的に大学・学部全体に目を向け、現在求められている情報は何かを考えて企画し、実行した。これは「広報」に特化したチームを設定したことにより、自分のスキルを生かす場が明確になった結果だと思われる。

3-4 広報チームのUdemy活用結果

「広報」としての実践活動は多様な形で展開されたが、Udemyの活用は予定したほど進まなかった。インタビューに関する講座・チラシの作り方の講座など、活動に関わる講座の受講を開始しても、受講終了には到っていない。必要なスキルは、学生個人がすでに身につけていたり、学生同士で教え合う形で習得されていたりした。講座受講後の学生からは各プログラムの難度がつかみにくい、どれから受講すればいいのかわからないという、プログラム選択の時点で戸惑っている状況も述べられていた。

実践が目的となる場合、手早くピンポイントでの情報を求めがちとなり、自習より知人に聞く、検索サイトで調べるという方法が取られることが多い。実践とUdemy受講を効果的に連動するためには、

事前により具体的な目的を設定する、一定水準の技術習得（InDesign ソフト、Adobe Premier での映像編集）を想定したうえでの活動を企画するなど、学びと実践との関連付けを含め、活動と受講とをどのように設計するかを検討する必要がある。

ただし Udemy 受講を意識することによって、スキル習得の必要性、ソフトの使用やデザイン思考といったテクニカルなものへの関心は強まった。広報以外のことで、面接や就職に関わることやその他のスキルなど、それぞれの興味がある講座などを個人で受講している様子も若干見られた。

4. 無所属チーム

4-1 活動の実践と成果

無所属チームでは、人文学部（2年生以上）・国際文化学部（1年生）を対象として Udemy のプログラムを利用したい学生を募った。説明会を経て正式に申し込んだ学生は6名であり、7月から受講を開始した。教員が受講状況を管理することはせず、学生の都合のよい時に受講をするよう促した。

必修講座のない学生の主体的な学びが求められる無所属チームは、学びたい事が明確な学生は積極的に計画的な講座受講がなされており完了もしている。しかし、興味本位で申し込んだ学生は講座登録の段階でつまずき、講座完了まで到っていない。学びたいという意欲はあるが、講座数が多く、自分に合う講座が見つけれなかったことが登録数の伸長に影響したと思われる。

5. Udemy利用学生へのアンケート調査報告

5-1 アンケート調査の概要

Udemy に登録した学生に対し、参加動機や利用しての感想、要望等を調べるためのアンケートを行った。概要は以下の通りである。

- ・実施時期：2021年9月27日（月）～10月15日（金）
- ・調査方法：Google Forms による記名式アンケート（選択式、一部自由記述）
- ・対象：Udemy に登録した学生25名（学習サポーターチーム11名 / 広報チーム8名 / 無所属6名）
- ・回答者数：23名（学習サポーターチーム9名 / 広報チーム8名 / 無所属6名）⁵

5-2 設問ごとの集計結果

以下、調査結果について設問ごとに述べる。グラフにより提示する結果は、各項目の回答の平均値の高い順に並べている。また、自由記述の回答は原文ママとし、必要に応じて括弧内に注を記した。

項目1, 2, 3, 5において、「5（あてはまる）」を選んだ参加者が最も多かった（ただし項目3は「4」の回答数と同数）。これらは、学生生活や卒業後にスキルアップが役に立つ、無料である、という項目である。これらに次いで、学べる内容やスキル（項目4, 7, 8, 9）に対する関心が高かった。

その他の参加理由・きっかけとして、自由記述には「学びたい技術があったと思ったから」等の回答が見られた。学びたいことに対する学習意欲や、学習後

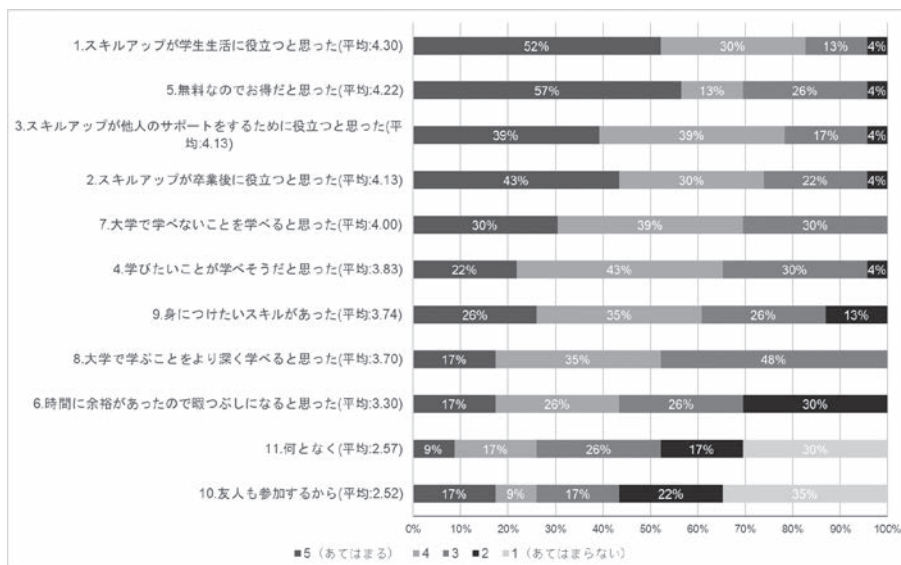


図4：（設問1）あなたはなぜUdemy利用のプロジェクトに参加しようと思ったのですか。

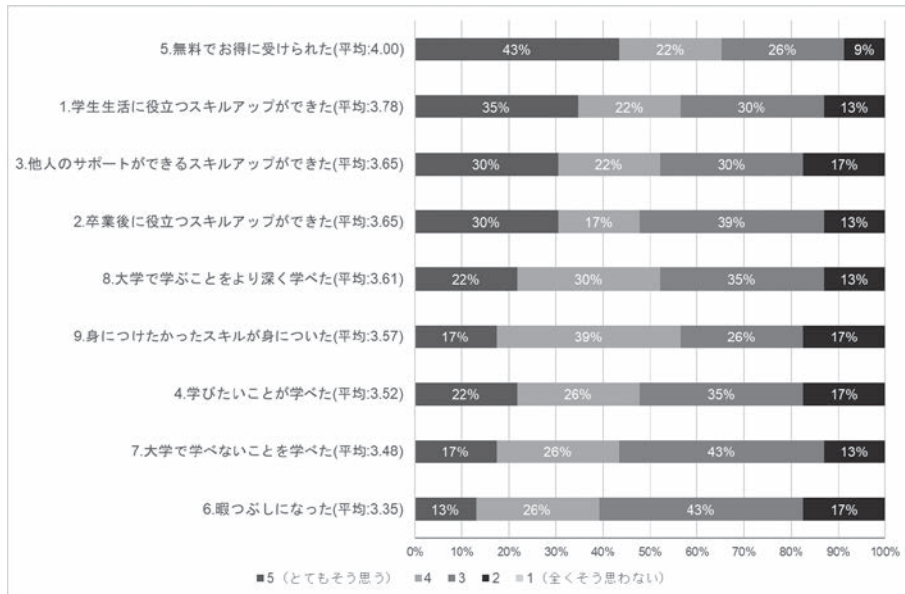


図5：(設問2) これまで受講してきて、どうでしたか。

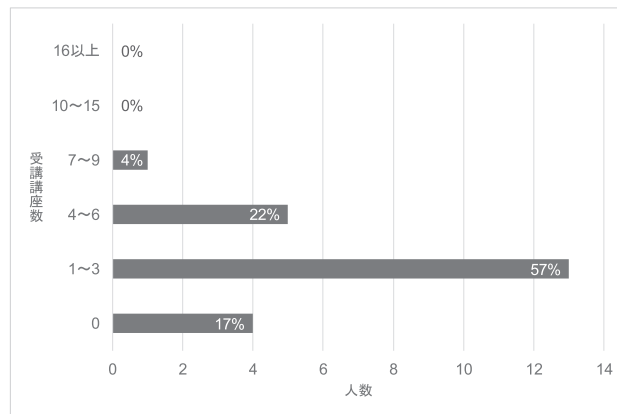


図6：(設問3) Udemyで、いくつかの講座を受講しましたか(半分以上終了したものをカウント)。

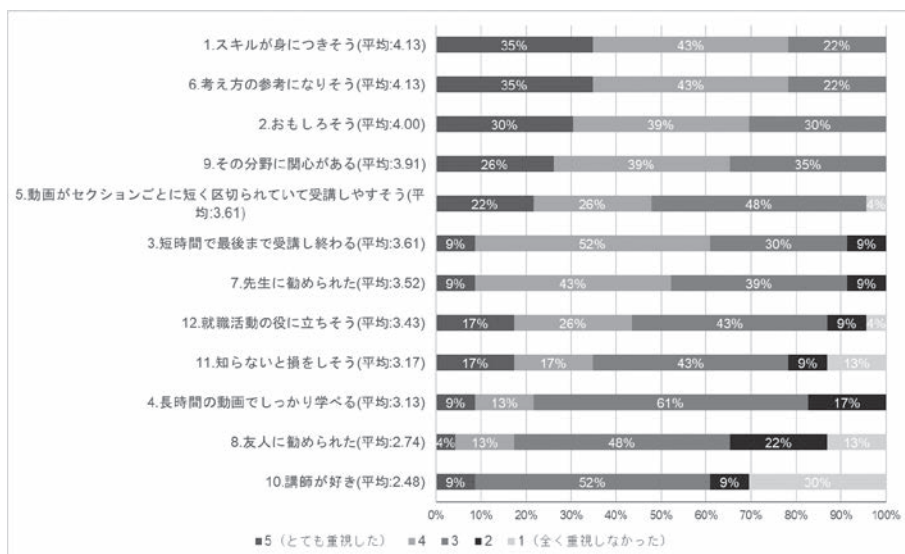


図7：(設問4) 動画を視聴する/受講するかどうかを決めるときに何を重視しましたか。

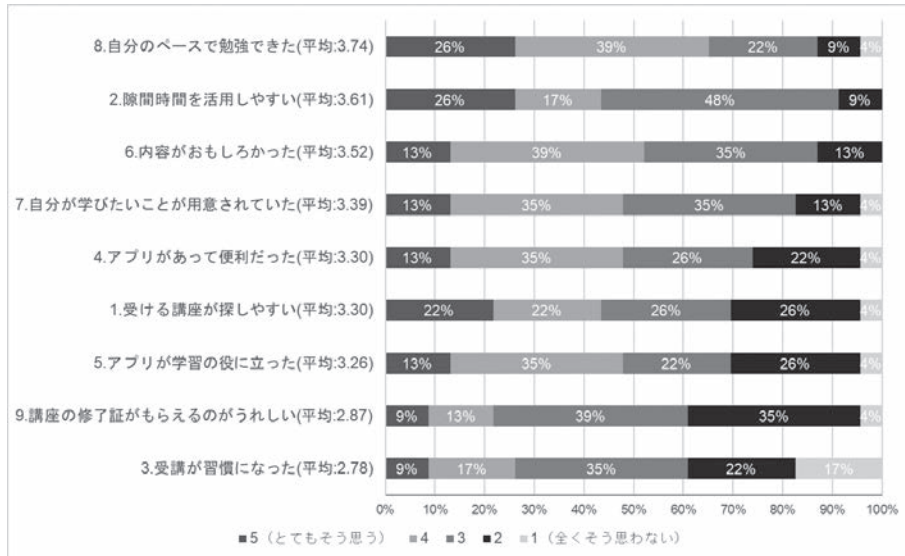


図8：(設問5) Udemtyを利用しての印象、感想はどうか。

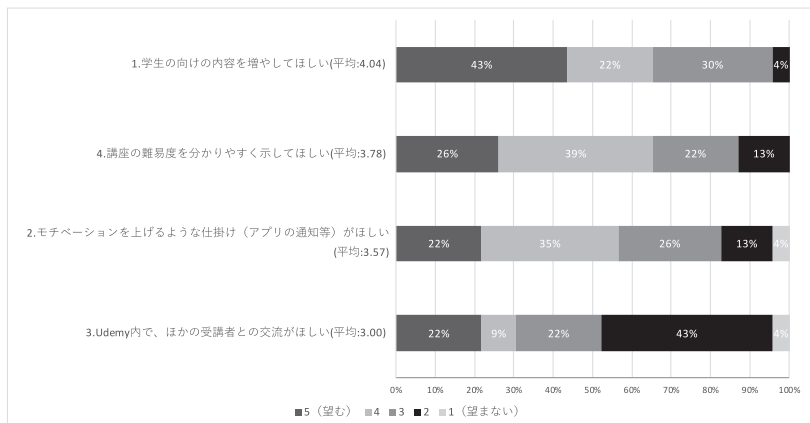


図9：(設問6) Udemtyに次のようなことを望みますか、望みませんか。

の活用まで考えた上での参加であったことが伺える。

無料で受講できたこと、学生生活や卒業後にスキルアップができたという項目(1, 2, 3, 5)の平均値が高かった。学んだ内容やスキルに関する項目(4, 7, 8, 9)がそれに続いている。

本設問の項目は、図4(設問1)の項目の1~9までとそれぞれ対応しているが、回答の平均値を見ると、傾向は概ね同じである。このことから、参加者の期待していたことは得られたように思われる。

その一方で、各項目の回答結果を見ると、ばらつきが大きく、また最も多く選ばれた回答が「3」である項目が9つ中6つ(項目2, 3, 4, 6, 7, 8)に上る。このことから、受講後の結果について判断し難いと感じている可能性も指摘できる。

6割近くの参加者が、1~3講座の受講であった。また、全く受講しなかった参加者も4名いた。約半年の利用期間中、7講座以上(1ヶ月平均1講座以上)

受講したのは1名にとどまった。

平均値で上位を占めているのは、内容に対する関心や学ぶことで得られるものがありそうだという項目(1, 2, 6, 9)である。それに次いで、短時間で受講完了できるものや、動画が短いセクションに区切られているものといった、受講時間に関するものの値が高い(項目3, 5)。

また、動画や講座の長さに関する3つの項目(3, 4, 5)の回答から、長時間でじっくり学ぶタイプの講座よりも、講座全体の長さが短いものや、一つひとつの動画が短く区切られているものが好まれることが分かる。これには、Youtubeなど短時間の動画視聴が身近になっていることとも関連している可能性があるだろう。

自由記述の回答としては「タイトルで選んだ」という回答があった。これは、例えば「2.おもしろそう」かどうかを何によって判断したか、という回答であ

Udemy Business を活用した大学教育プログラムの実践及び検証プロジェクト

表1：(設問1) Udemy利用のプロジェクトに参加した理由

●あなたはなぜ、Udemy利用のプロジェクトに参加しようと思ったのですか。	平均値				平均値の差			T-Test (P値)		
	ALL	学習サポーターチーム	広報チーム	無所属	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】
[スキルアップが学生生活に役立つと思った]	4.30	4.56	4.00	4.33	0.56	0.22	-0.33	0.254	0.572	0.547
[無料なのでお得だと思った]	4.22	4.22	3.63	5.00	0.60	-0.78	-1.38	0.248	0.043*	0.008**
[スキルアップが卒業後に役立つと思った]	4.13	4.22	3.88	4.33	0.35	-0.11	-0.46	0.478	0.815	0.362
[スキルアップが他人のサポートをするために役立つと思った]	4.13	4.67	3.63	4.00	1.04	0.67	-0.38	0.001**	0.265	0.518
[大学で学べないことを学べると思った]	4.00	3.89	4.00	4.17	-0.11	-0.28	-0.17	0.794	0.505	0.717
[学びたいことが学べそうだった]	3.83	3.89	3.50	4.17	0.39	-0.28	-0.67	0.331	0.554	0.226
[身につけたいスキルがあった]	3.74	4.11	3.38	3.67	0.74	0.44	-0.29	0.099	0.493	0.663
[大学で学ぶことをより深く学べると思った]	3.70	3.89	3.38	3.83	0.51	0.06	-0.46	0.129	0.910	0.333
[時間に余裕があったので暇つぶしになると思った]	3.30	3.22	3.25	3.50	-0.03	-0.28	-0.25	0.958	0.688	0.718
[何となく]	2.57	2.56	2.00	3.33	0.56	-0.78	-1.33	0.352	0.339	0.093
[友人も参加するから]	2.52	2.33	2.38	3.00	-0.04	-0.67	-0.63	0.955	0.449	0.487

表2：(設問2) 受講したうえでの評価

●これまで受講してきて、どうでしたか。	平均値				平均値の差			T-Test (P値)		
	ALL	学習サポーターチーム	広報チーム	無所属	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】
[無料でお得に受けられた]	4.00	4.11	3.50	4.50	0.61	-0.39	-1.00	0.195	0.525	0.129
[学生生活に役立つスキルアップができた]	3.78	4.67	2.75	3.83	1.92	0.83	-1.08	0.000**	0.148	0.074
[卒業後に役立つスキルアップができた]	3.65	4.22	2.88	3.83	1.35	0.39	-0.96	0.006**	0.531	0.103
[他人のサポートができるスキルアップができた]	3.65	4.44	2.75	3.67	1.69	0.78	-0.92	0.000**	0.198	0.139
[大学で学ぶことをより深く学べた]	3.61	4.00	3.00	3.83	1.00	0.17	-0.83	0.023*	0.772	0.166
[身につけたかったスキルが身についた]	3.57	3.89	3.00	3.83	0.89	0.06	-0.83	0.046*	0.924	0.166
[学びたいことが学べた]	3.52	3.78	2.88	4.00	0.90	-0.22	-1.13	0.039*	0.724	0.087
[大学で学べないことを学べた]	3.48	3.56	3.00	4.00	0.56	-0.44	-1.00	0.182	0.427	0.089
[暇つぶしになった]	3.35	3.78	2.75	3.50	1.03	0.28	-0.75	0.002**	0.661	0.249

表3：(設問4) 動画を視聴する／受講する際に何を重視するか

●動画を視聴する／受講するかどうかを決めるときに何を重視しましたか。	平均値				平均値の差			T-Test (P値)		
	ALL	学習サポーターチーム	広報チーム	無所属	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】
[考え方の参考になりそう]	4.13	4.56	3.50	4.33	1.06	0.22	-0.83	0.006**	0.435	0.031*
[スキルが身につくそう]	4.13	4.33	3.88	4.17	0.46	0.17	-0.29	0.245	0.676	0.507
[おもしろそう]	4.00	4.00	3.75	4.33	0.25	-0.33	-0.58	0.523	0.465	0.192
[その分野に関心がある]	3.91	4.11	3.50	4.17	0.61	-0.06	-0.67	0.090	0.905	0.200
[短時間で最後まで受講し終わる]	3.61	3.89	3.25	3.67	0.64	0.22	-0.42	0.066	0.648	0.419
[動画がセクションごとに短く区切られていて受講しやすそう]	3.61	3.67	3.50	3.67	0.17	0.00	-0.17	0.769	1.000	0.786
[先生に勧められた]	3.52	3.56	3.63	3.33	-0.07	0.22	0.29	0.849	0.659	0.572
[就職活動の役に立ちそう]	3.43	3.56	2.88	4.00	0.68	-0.44	-1.13	0.192	0.364	0.060
[知らない点と損をしそう]	3.17	3.22	2.63	3.83	0.60	-0.61	-1.21	0.327	0.332	0.095
[長時間の動画でしっかり学べる]	3.13	3.00	2.88	3.67	0.13	-0.67	-0.79	0.708	0.204	0.138
[友人に勧められた]	2.74	2.56	2.88	2.83	-0.32	-0.28	0.04	0.496	0.665	0.950
[講師が好き]	2.48	2.11	2.38	3.17	-0.26	-1.06	-0.79	0.589	0.193	0.312

表4：(設問5) Udemyを利用しての印象や感想

●Udemyを利用しての印象、感想はどうか。	平均値				平均値の差			T-Test (P値)		
	ALL	学習サポーターチーム	広報チーム	無所属	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】
[自分のペースで勉強できた]	3.74	4.11	3.00	4.17	1.11	-0.06	-1.17	0.026*	0.924	0.073
[隙間時間を活用しやすい]	3.61	3.78	3.38	3.67	0.40	0.11	-0.29	0.393	0.855	0.633
[内容がおもしろかった]	3.52	3.78	3.00	3.83	0.78	-0.06	-0.83	0.062	0.912	0.118
[自分が学びたいことが用意されていた]	3.39	3.56	2.75	4.00	0.81	-0.44	-1.25	0.081	0.427	0.046*
[受ける講座が探しやすい]	3.30	3.44	2.75	3.83	0.69	-0.39	-1.08	0.252	0.550	0.114
[アプリがあって便利だった]	3.30	3.78	2.88	3.17	0.90	0.61	-0.29	0.109	0.299	0.662
[アプリが学習の役に立った]	3.26	3.78	2.63	3.33	1.15	0.44	-0.71	0.028*	0.497	0.319
[講座の修了証がもらえるのがうれしい]	2.87	3.11	2.38	3.17	0.74	-0.06	-0.79	0.065	0.935	0.267
[受講が習慣になった]	2.78	2.78	2.50	3.17	0.28	-0.39	-0.67	0.599	0.625	0.390

表5：(設問6) Udemyに望むこと

●Udemyに次のようなことを望みますか、望みませんか。	平均値				平均値の差			T-Test (P値)		
	ALL	学習サポーターチーム	広報チーム	無所属	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】	【サポ】 - 【広報】	【サポ】 - 【無】	【広報】 - 【無】
[学生向けの内容を増やしてほしい]	4.04	4.44	3.25	4.50	1.19	-0.06	-1.25	0.008**	0.910	0.012*
[講座の難易度を分かりやすく示してほしい]	3.78	3.89	3.75	3.67	0.14	0.22	0.08	0.757	0.736	0.900
[モチベーションを上げるような仕組み(アプリの通知等)がほしい]	3.57	3.78	3.25	3.67	0.53	0.11	-0.42	0.331	0.867	0.561
[Udemy内で、ほかの受講者との交流がほしい]	3.00	3.44	2.25	3.33	1.19	0.11	-1.08	0.037*	0.886	0.149

ろう。上記のグラフで高い平均値を示した項目(1, 2, 6など)について、何を基準にそのように判断したのか、さらに調査することによって、学生の興味を

引き、学習意欲を掻き立てるような働きかけの参考になる可能性がある。

自分のペースで、隙間時間を活用しつつ学べると

評価した参加者が多い一方で、「3. 受講が習慣になった」の平均値が低いことから、習慣化にはつながっていなかったことが伺える（受講した講座数については（設問3）を参照）。その他の印象・感想として、自由記述には「画面の操作方法やコースの登録方法がわかりずらく、実際に動画を見るまでにストレスになった。」等の回答があったが、これらは受講が習慣にならなかった要因の一部として捉えることができそうである。

講座の探しやすさ（項目1）に関しては、意見が分かれているが、用意されている講座やその内容（項目2, 6）に関しては、概ね満足傾向であった。受講完了後に発行される修了証（項目9）については、それほどインセンティブを感じていない参加者が多かった。

（設問7）Udemy に提案したいこと、改善してほしいことなどがあれば、自由に書いてください。（自由記述）

- ・ログイン情報がすぐに切られてしまうので、もう少し連続ログインの時間が長いと嬉しいです。
- ・他の受講生の進み具合が見れたら嬉しかった
- ・操作のわかりやすさや、動画のスキルレベルが分かりやすくなるように改善できたら良いと思う。
- ・講座の難易度がわかりにくい
- ・資料をPDFなどでダウンロードできるようにしてほしい

（設問6）（設問7）への回答から、主に学生向けの内容、操作性の改善、講座の難易度の分かりやすさが望まれていることが分かる。

学生向けの内容に関して言えば、学生用に作られた講座でなくとも、例えば講座の説明欄等に、学生受講者向けの説明（例えば学生生活のどのような面に役立てられるか等）があれば、具体的な活用がイメージできるのではないだろうか。

講座の難易度に関しては、自分に合った難易度の講座にたどり着くまでに、何度も検索、登録、受講開始、という流れを繰り返した場合、たとえ適切な難易度の講座が存在していても見つけるまでに諦めてしまう可能性があるだろう。操作性とも関わる点であるが、難易度別の検索や、簡易的なレベル指標の表示によって、受講意欲を保つことができると思われる。

（設問8）Udemy の受講をして、自分自身に何か変化はありましたか。あったとしたらどのようなところでしょうか。自分自身の取り組みの自己評価もあわせ

て、自由に記述してください。（自由記述）

- ・とても有意義なものだと思う。
- ・今までビジネス系の講座に興味がありませんでしたが、Udemy を通じてそういった講座でどういったことが学べるのか肌で感じることができました。
- ・個人的に動画を長時間見ることが得意ではなかったことに途中で気づいたため、活用しきれなかった部分はあります。今後は対面やテキスト資料のある講座に挑戦した方がいかもしれないと思いました。
- ・隙間時間を有効に使うきっかけを得られたと感じる。
- ・受講した内容をどうすればわかりやすく伝えられるかをよく考えられるようになった。

今まで関心のなかったことに関心を持つようになったこと、時間の有効活用に関すること、受講した内容の活用など、肯定的に捉えるコメントが寄せられた。3点目のコメントは一見消極的であるが、むしろ自分自身に合う学習方法への気づきを得られたという点で、今回の参加から得たものがあったと言える。

5-3 所属によって Udemy の評価に差があるか

以下は、「学習サポーターチーム」「広報チーム」「無所属」という3チームで Udemy に対する評価に差があるかについての分析を行う。

「5（あてはまる）」から「1（あてはまらない）」あるいは「5（望む）」から「1（望まない）」までの5段階評価をそのまま得点とし、各質問項目に対する平均点をチームごとに計算した。そのうえで、学習サポーターチームと広報チーム、学習サポーターチームと無所属、広報チームと無所属の3パターンで平均値の差を求め、T検定を行った。以下の表で網掛けの欄のうち、*の表示のある項目がp値0.05未満、**がp値0.01未満で、Udemy に対する評価に有意な差が見られる項目である。

各表における項目の並びは、全体の平均点が高い順である。

以下、有意差があったもののみコメントする。

「スキルアップが他人のサポートをするために役立つと思った」という評価は「学習サポーターチーム」が高い（対「広報チーム」）。「無料なのでお得だと思った」という評価は「無所属」で高かった（対「学習サポーターチーム」「広報チーム」）。

「学習サポーターチーム」は学習の第一目的が、

基礎演習という科目での1年生のサポートであったので、その意識をしっかりと持って参加したことが結果からうかがえる。

「学習サポーターチーム」では、「学生生活に役立つスキルアップができた」「卒業後に役立つスキルアップができた」「他人のサポートができるスキルアップができた」「大学で学ぶことをより深く学べた」「身につけたかったスキルが身についた」「学びたいことが学べた」「暇つぶしになった」の7項目で、「広報チーム」に対して評価が高い。

Udemyでの学びの満足度が概して高かったのは「学習サポーターチーム」であったことが結果から明らかである。「無所属」チームと「学習サポーターチーム」との差は有意ではないが、「広報チーム」は「学習サポーターチーム」よりも満足度が有意に低かった。

「考え方の参考になりそう」という項目については、「広報チーム」に対して、「学習サポーターチーム」と「無所属」の両チームの評価が高かった。

動画を視聴する／受講するかどうかを決めるときに何を重視するかについては、それ以外の項目にチーム間の有意差はなかった。つまり、チームに必要な内容というよりは個人的な動機で受講を決めているということがわかる。

「学習サポーターチーム」が「広報チーム」より評価が高かったのが、「アプリが学習の役に立った」と「自分のペースで勉強できた」の2項目、無所属チームが「広報チーム」より評価が高かったのが「自分が学びたいことが用意されていた」という項目であった。

「学生向けの内容を増やしてほしい」は「広報チーム」と比較して「学習サポーターチーム」と「無所属」により強く望まれていた。また「Udemy内で、他の受講者との交流がほしい」は「広報チーム」と比較して「学習サポーターチーム」により強く望まれていた。

以上の平均値の差の検定(T検定)の結果を総括すると、「学習サポーターチーム」はUdemyに対しての評価が「広報チーム」より有意に高いものが多かった。「無所属」チームも「広報チーム」よりはUdemyに対しての評価が高かった。

6. 活動を通じての示唆・今後の課題と展望

学習サポーターチームのUdemyに対しての評価が総じて高かった理由として、講座の受講目的が明

確であったことが考えられる。必修として教員から指定された講座を期間内に視聴し、講習会の内容を学生が立案・実施する、という具体的な目的のためにどのような知識やスキルが必要になるのか講座から学びとらなくてはならない、という各学生の姿勢が強化されたのではないだろうか。

一方、3つのチームで広報チームが最もUdemyへの評価が低かった理由として、広報という作業特性に起因するものではないかと考える。広報チームでは各学生が一人あるいは数人で印刷物等の企画・作成を行う場面が多く、結果として個人での作業時間が多くなった。その中で、Udemyの講座を個人が必要に応じて受講していたが、今回の取組みでは個々で受講を進めていくことには限界があった。特に、講座数が多く、難易度がわかりにくい等の指摘がアンケート結果に見られた通り、広報で必要な知識や技術を得るための講座を学生個人で選択することが難しかったのではないだろうか。広報チームで取り組んだ印刷物作成・ソフトの活用などの具体的な実践活動とUdemyの活用とをつなげるには、より長期的なスパンで、体系的なプログラムの提案とそれと連動する活動の設計が必要であると思われる。

上述した学習サポーターチームと広報チームにおいてのアンケート結果の差を踏まえ、大学教育においてUdemyのようなオンライン学習ツールを活用する上で必要なことは、オンラインツールを用いた学習が学生にとって何によって動機づけられ、また習慣化するのかについて、戦略を練った上で導入することであろう。

今回のUdemyを用いた活動の結果から、受講完了数が全体的に少なく習慣化されていないことが明らかになっている。この点においては、学ぶ意思がある学生に対して、「何のために」という目的意識を明確にすること、どの講座で何が得られるのかといった周囲からの働きかけが講座受講の継続化・習慣化につながると考える。特に本学部においては、Udemyが提供する講座の内容と大学での学びに直接の関連性が薄く、学生の主体的な動機づけに結びつきにくかったようである。

また、個人でのオンライン学習ツールの自発的な受講を促すためには、学生がスキル習得や自身の成長において、現状と具体的な目的を自身で認識することが必要であると思われる。学生自身が自分で目的を見つけて学ぶ姿勢の醸成がオンライン学習ツール活用の課題となるだろう。

注

¹ Casa とは、人文学部・国際文化学部にて、2018年度より活動を開始しているピア・サポートやコモンズとしての役割を担う、有志の学生と教員によるグループである。

² 本制度に採択されたことにより、2021年4月から9月まで Udem Business を運営する株式会社ベネッセコーポレーションから、学生と一部の教員を対象に Udem Business を利用することができるアカウントを50枠ご提供いただいた。

³ プログラムに参加した学生のうち有志の学生は、後期の1年生向けの授業で PowerPoint 講座を実施した。夏休みに PowerPoint に関する Udem 講座の受講を進め、そこで学んだ知識と、Word 講習会で得た経験をもとに、10月に1年生の基礎演習の授業内で PowerPoint 講習会を実施し、学びの成果を復習し、実践する機会を設けた。

⁴ ラーニングパスは、組織での学習を促進するように設計されていた Udem Business の機能の一つである。Udem Business の高品質のコースをあらゆる種類のリソースと組み合わせることができるため、学習成果を達成するのに役立つ。

⁵ うち1名は、学習サポーターチームと広報チームを兼任していた。アンケートでの本人の回答に従い、「学習サポーターチーム」として集計している。